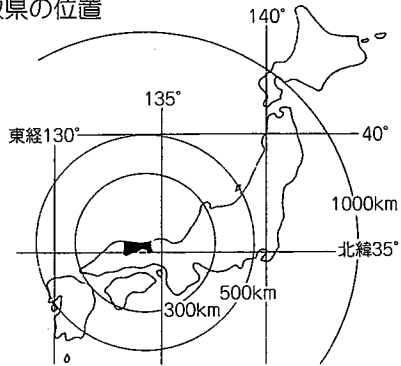


# 沿革・位置

## 鳥取県の位置



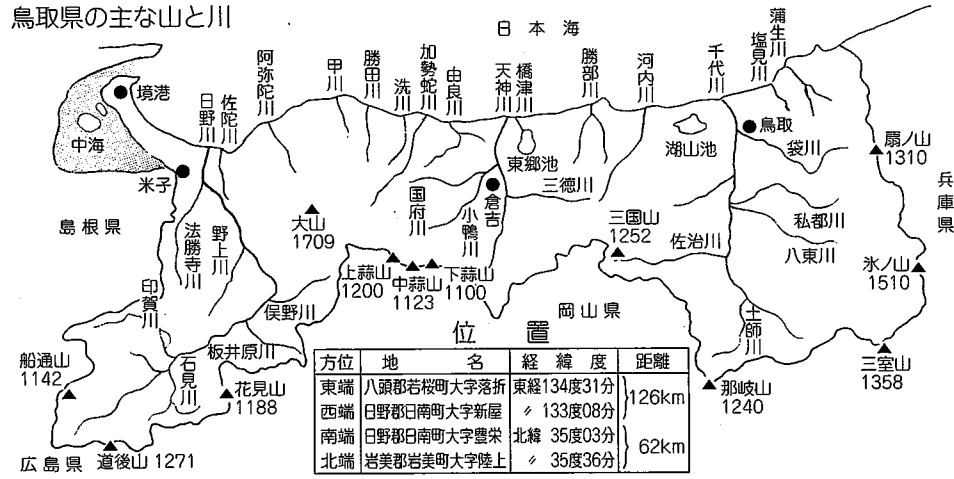
奈良朝の昔、今の鳥取市の付近には湖や沼が多く、水鳥などがたくさんいて、この鳥を取ることを仕事にしていた鳥取部（部というのは役の名前）が住んでいたことから、この辺りを鳥取と呼ぶようになったということです。

江戸時代には、因幡、伯耆の二国を合わせた鳥取藩を池田氏が治め、鳥取城を居城としていました。

明治になり、廃藩置県（明治4年）で、鳥取藩から鳥取県になりましたが、明治9年、隣の島根県に合併されました。

しかし、鳥取県の再置を望む声が高くなり、明治14年、再び鳥取県となり、今日に至っています。

## 鳥取県的主要な山と川



## 鳥取県の変遷

年月日	因	幅	国	伯耆	国	隠岐	
明治元年(14郡)	邑美郡 法美郡	岩井郡 八上郡	八東郡 智頭郡	高草郡 気多郡	河村郡 久米郡	八橋郡 汗入郡 日野郡	松江藩管理
明治4年7月14日(廃藩置県)	鳥取県					浜田県管理	
明治4年12月17日	鳥取県						
明治9年8月21日	合併により島根県						
明治14年9月12日	鳥取県(再置)					島根県	
明治29年4月1日	1市6郡	鳥取市 明治22年 10月1日設置	岩美郡 八頭郡 気高郡	東伯郡 西伯郡 日野郡			
米子市設置(昭和2年4月1日) 倉吉市設置(昭和28年10月1日) 境港市設置(昭和31年4月1日)							
平成16年11月1日	4市5郡	鳥取市 米子市 倉吉市 境港市	岩美郡 八頭郡 東伯郡 西伯郡 日野郡				
現在	* 気高郡消滅(鳥取市との合併により)						

## (土地)

平成16年10月1日現在の県の総面積は3,507km<sup>2</sup>で、全国の0.9%を占めており、都道府県別では41番目となっています。これを土地利用状況別に見ると、森林が全体の73.7%を占めています。

## (気象)

平成17年の天候の特徴として、春から夏にかけて梅雨前線が日本の南海上にあることが多かったため、西日本や東日本の太平洋側では少雨となりました。米子では4月の月降水量が30.5mmとなり、1940年統計開始以降の「4月の降水量の少ない記録」を更新しました。

12月は強い冬の気圧配置が続いたため、全国的に記録的な低温と大雪に見舞われ、鳥取では12月の月平均気温が3.3℃となり、1943年統計開始以降の「12月の平均気温の低い記録」を更新しました。また、大山では12月の月最深積雪が211cmとなり、1982年統計開始以降の「12月の最深積雪の記録」を更新しました。

日本に上陸した台風の数も3個(平年2.6個)と平年並でしたが、台風第14号は大型で非常に強く、速度が遅かったため、鳥取県に大きな被害をもたらしました。

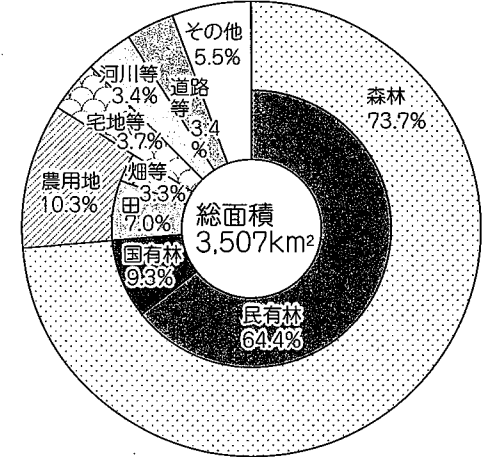
年平均気温を見ると、鳥取で平年並、米子で高くなりました。年間降水量は、鳥取で平年並、米子で少なくなりました。年間日照時間は、鳥取・米子ともに平年並となりました。

# 土地・気象

## 気象に関する主な指標

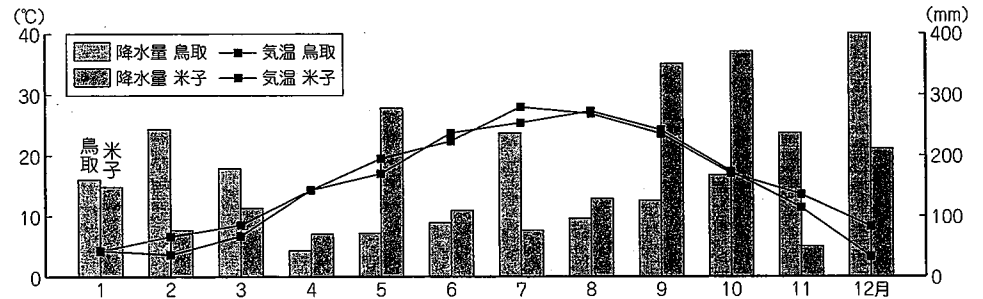
指標名	鳥取県	順位	全国	年次
平均気温(年間・鳥取)	14.9℃	29	15.2℃	17
日照時間(年間・鳥取)	1696.3h	37	1924.8h	17
降水量(年間・鳥取)	2003.0mm	5	1388.1mm	17

## 土地利用状況(平成16年10月1日)



資料出所：県景観まちづくり課

## 月別平均気温・降水量(平成17年)



## 鳥取・米子の気象

区分年次	気温(℃)			降水量(mm)		日照時間(時間)	最深積雪(cm)	日数		
	平均	最高(極)	最低(極)	合計	最大日量			降水10mm以上	降雪	
鳥取地方気象台	平成15年	14.9	36.2	-5.5	1,745.0	68.0	1,462.9	26	61	44
	16	15.8	37.0	-4.3	2,071.0	145.0	1,810.8	30	59	38
	17	14.9	35.8	-3.9	2,003.0	68.5	1,696.3	51	73	70
米子測候所	平成15年	15.1	35.7	-5.9	2,074.5	87.5	1,539.7	19	64	41
	16	16.0	37.2	-5.5	1,937.5	109.0	1,866.9	26	60	34
	17	15.1	36.3	-4.3	1,496.0	96.0	1,769.5	25	51	63

注:最深積雪は、前年10月より当年4月までの集計。  
)は、欠測日を含むことを示す。

資料出所：鳥取地方気象台